

第 13 回 RIEC スピントロニクス国際ワークショップ 13th RIEC International Workshop on Spintronics

開催日：平成 27 年 11 月 18 日（水曜日）～ 20 日（金曜日）（3 日間）

開催場所：東北大学電気通信研究所 ナノ・スピン実験施設

参加人数：185 名（うち外国人参加者人数 75 人）

本ワークショップは 2005 年に第 1 回が開催されて以来、ほぼ年 1 回のペースで回を重ね、今回で 13 回目の開催となった。今回は東北大学「知のフォーラム（Tohoku Forum for Creativity）」の一環として開催されたこともあり、過去最多となる 185 名の参加者を集めた。我が国をはじめとして、アメリカ、ドイツ、フランス、ポーランド、スウェーデン、サウジアラビアからの招待講演者による 22 件の招待講演に加え、35 件のポスター発表がなされた。

招待講演では、トポロジカル絶縁体やハーフメタルホイスラー合金などの新規磁性材料、反強磁性体におけるスピン輸送現象、スピン軌道トルク、マグノニクス、量子スピントロニクス、スピンの光学制御、スピン素子の脳型情報処理応用など、スピントロニクス分野の最新、かつ広範囲にわたる話題が扱われ、いずれも満員の聴衆との間で活発な議論がなされた。どのトピックも数年前には想像もできなかったほどの進展を見せており、この分野の奥深さや将来の更なる発展の可能性を改めて強く認識した。ポスター発表では本学の学生も発表を行い、世界の一流研究者に対して自分の研究内容を伝え議論することで、今後の研究を進めていくための良い示唆と大きな刺激が得られたものと思う。



ナノ・スピン実験施設 カンファレンスルームにて